

南薩教育事務所だより

令和7年6月発行

出逢いや縁を結ぶ

南薩教育事務所長 田子山 ゆかり

「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に。縁は求めざるには生ぜず。うちに求める心なくば、たとえその人の眼前にありとも、ついに縁は生ずるに到らずと知るべし。」

これは、日本の哲学者・教育者 森 信三先生の言葉である。心を打つ言葉で、事あるごとに思い出す。私自身は、この言葉を、「出逢いは必然であり、意味ある縁。その出逢いにより何かを為すきっかけとなったり、縁が様々な状況において支えとなったりすると感じており、その時の出逢いや縁をどう意味付けるのかは自分次第である」と捉えている。

エピソードを一つ紹介したい。ある日、「お久しぶり、覚えていますか。近くで演奏会をするので、もし良かったらあなたの学校にも行きますよ。」と連絡をいただいた。私は非常に驚いた。なぜなら、その方との出逢いは7年も前のことであり、それ以来、連絡を取り合っていなかったからだ。7年前のことを懐かしみながらの話はひとしきり盛り上がり、演奏会を開催していただくこととなった。

リコーダーの柔らかな音色、ピアノと重なる美しいハーモニー、子供たちは、自然と体でリズムをとり、歌詞を口ずさむ。生で演奏が聴ける機会はそうあるものではない。リコーダーの種類や大きさによって異なる音色、音を奏でるピアノの構造などについても学ぶことができた。本物と間近で、しかも直接触れることができ、素敵な音楽の世界に引き込まれ、魅了された時間となった。

それ以降、ご縁は続き、研修会等で御世話になったり、最近ではミニライブの案内をいただき、音楽やお話などに癒やされたり、自作されたつぶやき集をめくっては、前向きな言葉に後押しされたりしている。

人生で出逢うべき人との出逢いは必ずあり、そのタイミングは必然。これまでの、そしてこれから訪れる出逢いや縁、その全てを大切にしたい。

令和7年度が始まり2か月が過ぎた。多くの学校において、メンバーの入れ替わりがあり、新しい風がふき、新たなカラーを出しながら、様々な教育活動が展開されていることであろう。あらゆる出逢いや縁を結び、益々充実した取り組みが行なわれることを願うとともに、当事務所も深い繋がりがもてるよう力を尽くしたい。

運転前の振り返り

学校職員は、子供たちに対して交通法令の遵守について指導する立場にあることから、職員一人一人が、交通法規の遵守を改めて強く自覚する必要があります。

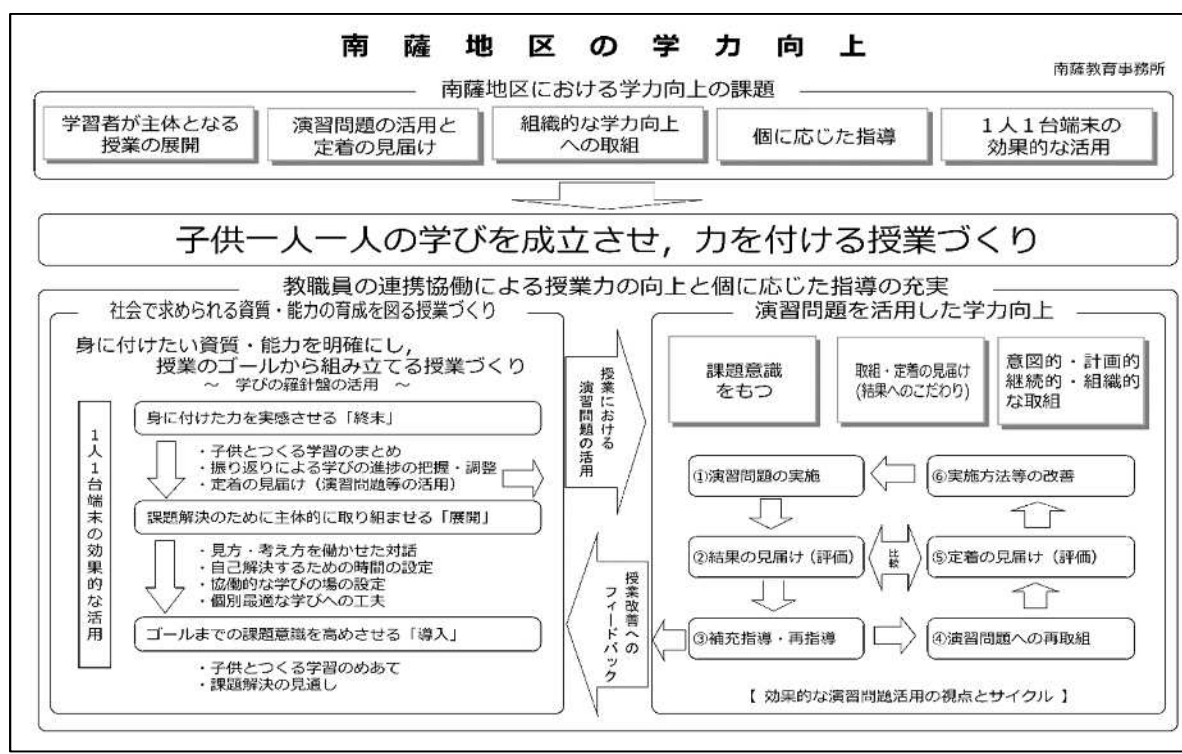
地区内でも、交通事故（加害）や速度超過の交通違反が発生しています。交通事故等を未然に防ぐためにも、運転前に振り返ってみましょう。

- ・ 時間や心にゆとりをもった行動を心掛けていますか。
- ・ 交通法規を遵守すべき学校職員であるという意識を常にもっていますか。
- ・ アルコールは残っていませんか。
（「仮眠をとれば…、翌日になれば…」は大丈夫ではない。）
- ・ 自分の運転技術を過信していませんか。
- ・ 歩行者への気を配るとともに、速度を守り、車間距離をとるなど安全運転に心掛けていますか。
- ・ 家族があなたの無事を願っていることを忘れていませんか。

授業づくりとおした学力向上の推進

南薩地区の学力向上のテーマは、「子供一人一人の学びを成立させ、力を付ける授業づくり」とし、「確かな学力の定着と見届け」、「教員の授業力及び資質の向上」、「教育におけるICTの効果的な活用」を重点として、取り組んでまいります。

今年度は、昨年度の各種調査結果の分析から、「確実な知識・技能の習得」、また、「学習者主体の授業」の実現に向けて、「単元の内容やまとまりを基にし、学びの羅針盤を活用した授業づくり」を推進していきます。研究協力校と協力して実践・研究を行い、その内容を、「学習者主体の授業づくりフォーラム」、「よりよい授業づくりに向けた研修担当者研修会」など学校へ還元できるようにしていきます。



積極的な生徒指導の推進

生徒指導における本地区の令和7年度重点施策は「魅力ある学校づくりに向けた取組の推進」、「生徒指導提要及び法令に基づいた組織的対応」、「キャリア教育の充実」です。また、いじめの認知に関する積極的な取組等を一層推進する必要があることから、生徒指導提要を活用した法令等に基づく生徒指導体制の推進を図っています。

1 いじめ問題への対応

(1) いじめの認知

「いじめ防止対策推進法」第二条の「いじめの定義」及び「学校いじめ防止基本方針」に基づき迅速に対応する。

- (2) いじめの認知が0件の学校は、保護者や地域に対してその結果を公表し、認知漏れがないかを確認する。
- (3) 把握した子供たちの気になる言動については、必ず「学校いじめ対策組織」に報告し、組織的に対応する。
- (4) 重大事態への発展が想定される事案については設置者に直ちに報告し、関係機関と連携しながら迅速かつ適切に対応する。

体力テストの効果的な分析

新体力・運動能力調査が各校で行われていると思います。本年度の子供たちの結果はいかがでしょうか。

この調査は、調査対象学年の結果を全国・県平均と比較し、現状を知ることも大切ですが、なにより分析結果から課題解決の取組を設定し、学校全体で実践することが重要です。さらに、同母集団の経年比較をすることで、課題解決の取組が正しかったのか、改善が必要なのかが分かります。その際には、表1のように全国平均以上の割合を加えたり、表2のようにTスコアを活用したりすることで、全国・県平均が同じ結果(◎や○など)でも伸びや落ちを見取ることができます(例えば、表2の握力と上体起こしは全国平均以下が多いですが、握力は課題解決の取組が実りつつあるのに対して、上体起こしの取組は改善が必要です)。

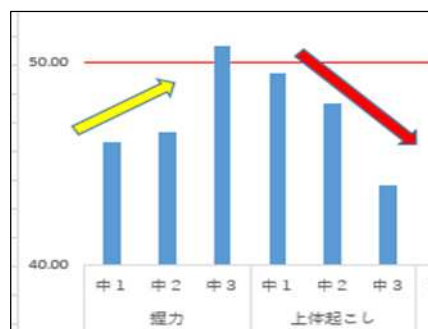
子供たちが課題解決に向けた取組ができるよう、意欲を喚起する声掛け、取組ができる環境整備や時間の設定、家庭・地域への情報提供等、よろしくお願いいたします。

【表1】

項目	平成28年度：4年生男子		平成29年度：5年生男子		平成30年度：6年生男子	
	記録	全国平均以上の割合(%)	記録	全国平均以上の割合(%)	記録	全国平均以上の割合(%)
握力(kg)	13.44	38%	◎17.47	47%	◎21.36	71%
上体起こし(回)	13.27	8%	○19.87	47%	◎23.21	64%
長座体前屈(cm)	24.88	8%	27.40	7%	◎38.36	50%
反復横跳び(回)	◎38.88	47%	○42.25	56%	◎48.79	64%
20mシャトルラン(回)	○42.13	25%	○53.81	44%	◎67.43	50%
50m走(秒)	10.38	50%	9.81	38%	○8.81	50%
立ち幅跳び(cm)	135.31	31%	◎158.13	56%	○165.57	36%
ソフトボール投げ(m)	◎21.94	56%	◎28.00	73%	◎34.71	78%

◎：全国平均を超えた種目 ○：県平均を超えた種目

【表2】



南薩のよさを生かした社会教育

南薩地区では学校と地域が連携・協力して、子供たちの体験活動の充実を図っています。また、各地域のすばらしい人材、郷土素材を生かして特色ある教育の取組が進められています。

南薩地区の小学校1年生、義務教育学校前期課程1年生に配付している家庭教育支援啓発資料「親子手帳」には、子育てに関するヒントを始め、南薩地区の文化財や昔話、地域の一押しイベントの紹介、大人になるまでに読みたい本のリスト等良質な情報が掲載されています。御家庭では親子で話題にしたり、学校ではPTAや家庭教育学級で、学び合いの資料として御活用ください。



特別支援教育の充実

特別支援教育では、「インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育の推進」、「教育的ニーズを踏まえた学びの充実」、「ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築」を重点として取り組んでいきます。

今年度は、特に、個別の教育支援計画と指導計画の早期作成、見直し及び計画的・効果的な活用と適切な指導・支援の実現を図っていきます。また、「地区特別支援教育連絡会」を開催し、各市教育委員会及び関係特別支援学校との連携を図り、巡回相談等による支援体制を構築していきます。さらに、開催する各種研修会において、「子供たちの状況に応じた特別支援学級の教育課程の編成及び確実な実施」、「子供たちの状況に応じた自立活動指導計画の作成と確実な実施」、「支援計画・移行支援シートの確実な引継ぎ及び活用」を推進し、継続したきめ細やかな支援の提供を目指します。

学校支援専門官の業務

今年度から県教育委員会事務局に「学校支援専門官」という新しい職が設置されました。学校支援専門官は、教職員課に2人、教育事務所に6人が配置され、計8人で、各地区と県立学校を担当しています。

この学校支援専門官は、学校や教育委員会が抱える「解決や対応が困難な事案」について、初動のアドバイスをしたり、法令・通知等の根拠を明らかにしたりします。

また、関係機関との連携など、様々な視点から解決の糸口を見い出せるように、8人がチームとなってサポートにあたります。

ただし、学校支援専門官は解決の主体となるものではありません。教育委員会や学校が、サポートやアドバイスを参考に、事案の性質や実情に応じて対応の判断をすることになります。学校支援専門官は、教育委員会の依頼によって、個別の支援に当たることも考えられます。

そして、これから先、学校支援専門官が関わる事案を積み上げ、事案対応のノウハウをまとめて、提供することも予定しています。

学校支援専門官は全員、校長を退職した者です。これまでの校長の経験を生かして、学校や教育委員会の業務をできるだけ手助けできればと考えています。

「転入職員・新任職員の紹介」



南薩教育事務所
所長 田子山 ゆかり

出水市教育委員会
学校教育課長より

4月に着任し、日々南薩地区の魅力を感じています。本地区の教育の振興・充実に誠心誠意、取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。



総務課
主幹兼総務係長 上奥 寿子

鹿児島県立図書館
資料課資料係長より

新採の時以来、久しぶりの南薩地区勤務です。誠意をもって、自分の役割を果たせるよう精一杯頑張ります。



総務課
主査 財満 翔吾

鹿児島県土木部監理課
主事より

早く業務を覚えて、南薩地区の教育に貢献できるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



総務課
主事 下原 未佳

新規採用

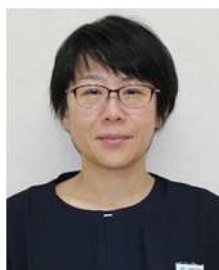
今年度から新規採用となりました。初めてのことばかりで不慣れな点も多いですが、一日でも早く、皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



指導課
学校支援専門官 有村 宏史

指宿市立北指宿中学校
校長より

学校や市町村教育委員会の抱える事案について、初動のアドバイスや関係機関との連携方法をサポートします。南薩地区の子供たちや教職員のために精一杯取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。



指導課
指導主事 池来須 隆子

鹿児島県立図書館
指導主事兼専門員より

主に社会教育、人権教育を担当します。地域や学校と連携して、南薩地区の子供たちが元気で学び、成長していけるよう精一杯務めます。



指導課
指導主事 中園 光貴

鹿屋市立鹿屋中学校
教頭より

主に生徒指導、学校訪問を担当します。ふるさとである南薩地区の学校教育の充実に向けて、微力ながら全力を尽くして参ります。よろしくお願いいたします。

